

美術科学習指導案

日 時 令和元年 12 月 20 日（金） 5 校時

対 象 第 1 学年 A 組 33 名

授業者 木村 創

場 所 3 階 美術室

1 単元名 「文字のデザイン・レタリング」

2 単元の目標（ねらい）

言葉の意味やイメージから文字のデザインを考え、効果的に伝わるように工夫して表現することができる。

3 単元の評価規準

ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
レタリングの目的や活用方法を理解し、見本をもとに表現方法の習得にむけて積極的に取り組んでいる。	永字八法をもとにして、自身の氏名を明朝体で表現することができる。	永字八法を理解して、それぞれの書体で表現することができる。	他者の作品や自己の作品を鑑賞して、それぞれの違いやよさ、美しさを味わっている。

4 指導観

（1）単元観

本単元は、文字をきれいに描くことを目的とする「レタリング」である。レタリングは、今後のポスターの制作にあたっては必須となる技法ではあるが、最近では、パソコン上の文書作成ソフト上でも、書体（フォント）や字の大きさなども容易を選択し、プリントアウトすることもできる。それらを原稿としてトレースすることなども可能である。しかし、プリントアウトした原稿を基にトレースをするにあたっては、書体のなかでの「ウロコ」、「曲がり」、「はらい」、「はね」、「点」などの構造的な特徴を理解しておく必要がある。また、なによりも生徒自身が「手描き」で「活字」のような表現に挑戦し、達成に近付ける喜びというのは、貴重な経験である。「真似する」、「模写する」という活動においては、即応的に「上手くいった」、「上手くいかなかった」という自己評価もはたらく。したがって、レタリングの作業は生徒が主体的に学ぶ姿勢をもちやすい課題であるととらえる。

（2）指導に当たって（生徒観・教材観・**タキソノミーにおける学習者の位置付け**）

第 1 学年は、年度当初、特別教室の使い方や授業の受け方などの基本的な授業態度や授業規律を培い、実践的な技能の取得を目指してきた。「自由に発想する」という作業になると個々の進度のばらつきが目立ち、なかなか進められない生徒も出てくる。一方、指示された作業においては、黙々と取り組み、一斉学習が成り立つ。作業や演習において、技能を習得し、自信をもって進められるように段階的にカリキュラムを組んでいくことで、高度な表現や深い構想につなげることができる¹と考える。

本時の学習活動は、タキソノミー改訂版において「A 事実的知識」「B 概念的知識」の「1 記憶する」、「2 理解する」、「B 概念的知識」の「3 応用する」に分類している。本時の中では、資料をもとに、用語を理解し、技能を習得していくことを学習者の動詞「聴く」、「覚える」、「理解する」、「描く」、「模写をする」として扱うことを目的とした。

5 本時の学習

(1) 目標

- ・書体の種類や違いを理解することができる。
- ・手順や書体の特徴を理解し、正確に表現できる。
- ・他者の作品を鑑賞して、違いや正しいところを理解することができる。

(2) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 (6分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいの確認 ・「書体について学び、明朝体で書くことができる」 ・第3学年の作品のポスターを提示し、作品のなかで「字をきれいに書くこと」の意義を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術と文字についての関連性に気付かせる。 	
(展開)タキノミーより:「聴く」、「覚える」、「理解する」、「描く」、「模写をする」の実践			
展開1 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・名称だけではなく、用途についても指摘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書体の特徴を聴いて、ワークシートに記入することができた。
展開2 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集を用いて、各書体の特徴を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集と照らし合わせながら、書体の特徴を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書体の表現を理解し実践して、覚えることができた。
展開3 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に「永字八法」で明朝体で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりイメージしやすいように説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に表現することができた。
まとめ (6分)	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒の作品を鑑賞する。 ・本時の振り返り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトで投影した他者の作品について、相違点やよいところに気付かせる。 ・上手くいったところや課題となったところを考えさせる。 ・次時の予告をする。 	

(3) タキノミーに対応した評価

- ・書体の特徴を聴いて、ワークシートに記入することができた。(聴く)
- ・書体の表現を理解し実践して、覚えることができた。(理解する・覚える)
- ・実際に表現することができた。(描く・模写をする)

家庭科学習指導案

日 時 令和元年12月20日(金) 5校時

対 象 第1学年B組 33名

授業者 池本 久美子

場 所 4階 1年B組教室

1 単元名 「住まいの安全について考えよう」

2 単元の目標 (ねらい)

- ・住まいの中の危険な場所について、事故防止の対策を考えることができる。
- ・災害に備えた住まい方を工夫できる。

3 単元の評価規準

ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し創造 する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術につい ての知識・理解
安全な住まい方について関心を持ち、家庭内事故や防犯についての課題に取り組もうとしている。	住まいの安全対策を考えられる。	家庭で実践できる安全対策を具体的にあげることができる。	住まいの安全対策について、家庭で実践できる方法を理解している。

4 指導観

(1) 単元観

住まいは安全で安心できる場である。しかし、実際には家庭内での事故は多く発生しており、その原因を考えていくことで、住まいは安全であるように整えることが必要であることに気付かせるようにしたい。また、家庭内での事故を防ぐ、火災や犯罪への備えをするなどの自身にできる工夫を具体的に考えさせたい。

(2) 指導に当たって (生徒観・教材観・**タキシノミーにおける学習者の位置付け**)

1年B組は、関心をもって授業に臨み、素直に作業に取り組める生徒が多い。しかし、全体指導では指示が理解できなかったり、作業に時間がかかったりする生徒も数名いる。前時での個人作業をしっかりと進めさせ、本時のグループでのまとめ、発表、評価に意欲的に参加させたい。

本時の学習活動はブルームのタキシノミー改訂版において「C 手続き的知識」の「4 分析する」、「D メタ認知的知識」の「5 評価する」に分類している。本時の中では、グループで意見をまとめていくことを学習者の動詞「分析する」、「比較する」とし、他のグループの発表を評価することで自分の考えに取り入れることをしていくことを学習者の動詞「評価する」として扱うことを目的とした。

5 本時の学習

- (1) 目標 ・家庭内での事故の原因、その対策をグループ討議できる。
 ・他のグループの発表を聞き、評価できる。

(2) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を確認する。 本時のねらいを確認する。 「家庭内の事故を防ぐ方法を考えることができる」 グループでの意見のまとめ方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物投影機を使い、電子黒板にプリントを写して説明する。 	
(展開1)タキノミーより:「分析する」、「比較する」の実践			
展開1 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> 席順で3～4名のグループになり、役割分担をする。 個人で考えた家庭内での事故の原因とその対策をグループでまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに間取り図に付箋を貼って事故の起きやすい場所と原因、対策を示させる。 間取り図を写真に撮り、ロイロノートで提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭内での事故の原因、その対策をグループ討議することができた。
(展開2)タキノミーより:「評価する」の実践			
展開2 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> グループでまとめた家庭内での事故の原因とその対策を発表する。 発表された中からよいものを選び、よいと感じた理由を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループの発表者には提出された間取り図を見ながら発表するよう助言する。 選ぶ基準を「自分や自分のグループが気付かなかったことを発表できていた」こととするよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループの発表を聞き、評価することができた。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を確認する。 (時間によっては次の課題、バリアフリー、ユニバーサルデザインの用語確認に進む) 		

(3) タキノミーに対応した評価

- 家庭内での事故の原因、その対策をグループ討議する。(分析する・比較する)
- 他のグループの発表を聞き、評価する。(評価する)

技術科学習指導案

日 時 令和元年12月20日(金) 5校時

対 象 第1学年C組 33名

授業者 霜田 俊和

場 所 2階 木工室

1 単元名 第1編 材料と加工に関する技術

2章 製作品の設計・製作 ③作業手順を考えて製作しよう 基礎技能 木材の切断

2 単元の目標 (ねらい)

- ・木材の切断に用いる工具と切断の仕組みを調べ、木材の適切な切断方法についての知識を身に付けている。
- ・木材の切断に用いる工具や機器を安全に使用し、木材を適切に切断することができる。

3 単元の評価規準

ア 生活や技術への関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術についての知識・理解
身の回りの製品に使われている材料(木材、プラスチック、金属)の特徴や加工方法について、意欲的に調べようとしている。	使用目的や使用条件に即して製作品の機能と構造を工夫しようとしている。	材料(木材、プラスチック、金属)の加工に必要な工具や機器を、正しい方法に基づいて適切かつ安全に使用できる。	材料(木材、プラスチック、金属)の加工に必要な知識や安全面について身に付けている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元では、主教材の「杉楽っ9」を通して、使われている材料の特徴を知るとともに、材料に適した加工法、工具や機器の安全な使用方法を学ぶ。また、使用目的や使用条件に即した機能と構造について考え、製作品の図面や構造の表示法を読み取り、部品加工や組み立て、仕上げができるようにする。

(2) 指導に当たって(生徒観・教材観・タキノミーにおける学習者の位置付け)

多くの生徒はものづくりに対して興味・関心をもち、主体的に作業に取り組んでいる様子が見られる。主教材である「杉楽っ9」には、導入教材が付属されている。その導入教材では、多くの生徒が小学校において木材を使った工作の経験しているため、小学校のときの体験を基に慣れないのこぎりを使いながら、互いに協力して作業に取り組んでいた。

本時の学習活動はタキノミーにおいて「C手続き的知識」の「5 評価する」に分類している。本時の中では、参考動画や他者との話し合いをもとに、自分の作業を見直し、よりよい作業方法をまとめていくことを学習者の動詞「取捨選択する」として扱うことを目的とした。

5 本時の学習

(1) 目標

- ・ 正確にのこぎり切断をすることができる。
- ・ 材料に適した切断方法についての知識を身に付けている。

(2) 本時の展開

段階	学習内容・ 学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のねらい 「お互いの切断面を観察して、作業の精度を判断することができる」 ・ ロイロノートで、切断動画を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料を正確に切断することの必要性を理解させ、正しいのこぎり切断の方法を身に付けることを伝える。 ・ ロイロノートの切断動画を繰り返し見ることによって自分の切断方法と比較する。 	
展開1 (12分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入教材の画像を確認し、切断面の様子を見比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入教材での切断面と比較することで、どのように切断すれば、まっすぐに切れるかを考えさせる。 	
(展開)タキノミーより:「取捨選択する」の実践			
展開2 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ のこぎりの切断方法についてまとめる。 「材料の固定」 「のこぎりの持ち方」 「刃の角度」 「切り始め」 「切断中」 「切り終わり」 ・ 本時の学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二人一組で交互に作業させ、技能を身に付けさせる。 ※机間指導を行い、まっすぐに切断できていない生徒への改善点を助言する。 ・ 本時の学習のまとめをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ のこぎりを正しい使用方法に基いて適切に操作することができる。 ・ 参考の動画や他者との話合いで自分の作業を見直し、改善することができた。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価を行い、振り返り次時の木材の切断について、本時で学んだ正しいのこぎりの切断の仕方を意識しながら作業することを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料に適した切断方法についての知識を身に付けている。

(3) タキノミーに対応した評価

- ・ 参考の動画や他者との話合いで自分の作業を見直し、改善することができた。(取捨選択する)

理科学習指導案

日 時 令和元年 12 月 20 日（金） 5 校時

対 象 第 1 学年 D 組 33 名

授業者 上野 英衣佳

場 所 3 階 第 2 理科室

1 単元名 「身のまわりの物質」

2 単元の目標（ねらい）

- ・身のまわりの物質について進んで関わり、目的意識をもって観察・実験を行い技能を習得し、観察・実験の結果を分析して解釈し表現する方法を身に付ける。
- ・固体や液体・気体の性質、物質の状態変化について日常生活と関連付けて理解し、物質に対する見方や考え方を養う。

3 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 科学的な思考・表現	ウ 観察・実験の技能	エ 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・金属やプラスチックなどが身のまわりのどのようなところで利用されているか考えようとしている。 ・身のまわりの気体について、それらの性質を進んで調べようとしている。 ・水溶液に溶けている物質を取り出すためにいろいろな方法を試してみようとする。 ・水やそれ以外の物質の状態変化と温度との関係について進んで調べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質を性質のちがいに着目して分類し、その物質は何かについて根拠を示して説明できる。 ・気体の捕集法のちがいは水への溶け方や密度が関係していることを説明できる。 ・水に溶質が溶けていくようすを観察し、その結果を粒子のモデルを用いて説明できる。 ・物質の状態が変化するときのようすを粒子のモデルを使って模式的に表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスバーナーを安全に正しく使うことができる。 ・安全面に配慮しながら正しい方法で気体を発生させ、その性質を調べることができる。 ・正しい方法で再結晶の実験を行うことができる。 ・沸点の測定を正しく行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質には固有の性質があることを理解し、知識を身に付けている。 ・気体によって密度や溶解度、においなどの特徴があることを理解し、知識を身に付けている。 ・溶質、溶媒、溶液について例をあげて説明できる。 ・物質の状態変化は、状態が変わるだけで物質そのものは変化しないことを理解し、知識を身に付けている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元の学習のねらいでは、身近な物質を取り上げることで物質に対する興味・関心を高められるようになってきている。また、物質の水への溶解や状態変化の学習では粒子モデルを用いて微視的な見方や考えた方ができるように図が用いられている。観察、実験では保護眼鏡の着用などによる安全性の確保や適切な実験器具の使用と操作の基盤を養うようになってきている。

(2) 指導に当たって（生徒観・教材観・**タキソノミーにおける学習者の位置付け**）

本学級の生徒は、観察・実験に高い興味や関心をもち、準備や片付けの役割を与えると積極的に動くことができる。また、観察・実験を楽しみだけに終わらせず、結果から考察しようとする姿勢が見られる。

本時の学習活動はタキソノミーにおいて「C 手続き的知識」の「4 分析する」「5 評価する」に分類している。本時の中では、白い粉の正体を見極めるための実験を行い、根拠とともにその物質名を伝えることを学習者の動詞「分析する」、「評価する」として扱うことを目的とした。

5 本時の学習

(1) 目標 事前に計画した方法で実験を行い、その結果から白い粉末の正体を推定することができる。

(2) 本時の展開

段階	学習内容・ 学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> 4種類の白い粉末を確認する。 本時のねらい「計画した方法で、白い粉の物質名を特定できる」 白い粉末の性質を調べるために必要な道具を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で分担して準備させる。 	
(展開) タキノミーより：「分析する」、「評価する」の実践			
展開1 (12分)	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで計画した方法で4種類の白い粉末の性質を調べ、プリントに記録する。 実験中の必要な情報をタブレット端末を用いて写真や動画を撮る。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視し、実験が安全に行われるように留意する。 撮影にはロイロノートを使用させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画した方法で物質を確認することができる。
展開2 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 白い粉末のようすや記録したものを確認しながら白い粉の物質名を特定する。 他のグループに自分たちの考えが伝わるように発表準備を行う。 ロイロノートでまとめる。 発表する。他のグループの発表を聞き、評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視を行い、必要な場合のみ声を掛け、サポートする。 発表しやすい環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの考えを全体に伝えることができる。他のグループの発表を聞き、考えが広がり深まったりすることができる。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 4種類の粉末の物質を伝える。 どのような方法で調べるとよかったのか確認する。 振り返りを記入する。 すべてのものを片付けをする。 		

(3) タキノミーに対応した評価

- ・計画した方法で物質を確認することができた。(分析する)
- ・自分たちの考えを全体に伝えることができた。他のグループの発表を聞き、考えが広がり深まったりすることができた。(評価する)

社会科学習指導案

日 時 令和元年 12 月 20 日（金） 5 校時

対 象 第 1 学年 E 組 34 名

授業者 関根 純一

場 所 4 階 1 年 E 組教室

1 単元名 「北アメリカ州」

多民族社会を形成するアメリカ～北アメリカ州の多人種・民族のくらしの現状と課題

2 単元の目標（ねらい）

- ・日本と北アメリカの社会の違いから、異文化共生について考えることができる。
- ・多くの人種・民族が共生する北アメリカの現状と課題について、統計資料を読み取ることや歴史的背景を理解することで把握し、異文化共生について自分の考えをもつことができる。

3 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
アメリカ合衆国の人種・民族の差別に関する問題や貧困の問題に対する関心を高め、とらえようとしている。	多民族多文化が共存するためにはどのような課題があるかを考察し、説明している。	アメリカ合衆国の人種・民族の分布と主な都市圏の人口構成から地域によって人口構成の違いが見られることを読み取っている。	アメリカ合衆国が必要な労働力が不足していたため、移民が積極的に受け入れられてきたことを各時代の背景や地域的特色から理解している。

4 指導観

(1) 単元観

翌年に大統領選挙を控えた現在のアメリカ合衆国が抱える問題を把握し、人種・民族等の違いについて、どのように互いに認め合って生きていくのかを考えるきっかけとしたい。

(2) 指導に当たって（生徒観・教材観・タキソノミーにおける学習者の位置付け）

普段から賑やかなクラスで授業時の反応もよい。男女の分け隔てなく意思の疎通もスムーズである。時間が経過すると集中が切れてしまうことがあるので机間指導等声かけ・アドバイスに留意していく。意見発表ではトランプ政権の批判に意見が集中しないよう展開に注意する。

本時の学習活動はタキソノミーにおいて「C 手続き的知識」の「4 分析する」に分類している。本時の中では、資料活用の技能や既習事項をもとに、自分の考えを再構築し、最終的な考えをまとめていくことを学習者の動詞「推論する」として扱うことを目的とした。

5 本時の学習

(1) 目標

- ・アメリカの人種差別問題の概要を理解することができる。
- ・多文化主義について北アメリカ州を例に理解することができる。
- ・異文化共生社会で生きていくうえで大切なことについてアメリカを例に考えることができる。

(2) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ・メジャーリーガー全員が背番号42番をつけている映像を見せる。 ・事前に課題にしていたアメリカのニュースソースを確認する。 ・本時のねらい「異文化共生社会で生きていくために必要なことを考えることができる」を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな意見を自由に出させる。タブレット端末で検索し、生徒に正解を見いださせる。 	
(展開)タキソミーより:「推論する」の実践			
展開1 (12分)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した人種・民族について確認をする。 ・なぜ差別が生まれるのか、どうしたら差別はなくなるのか、アメリカのこれまでの実例や自分の考えについてまとめる。 ・トランプ政権下における実例を検索しながら現在のアメリカの抱える問題点について考察する。 ・「人種のサラダボール」を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・白人、黒人、ヒスパニックで政治・経済的立場の違いは何か？大統領選挙1年前のアメリカ社会の分断の様子について新聞記事を提示する。全員に内容を読み取らせる。 ・各班をまわり、出た意見により適宜アドバイスをしながら新たな意見を促す。いろいろな視点をもって推察させる。 	
展開2 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・班で時間内に考えた意見を発表したり、新たな意見を出し合ったりする。 ・大統領選挙1年前というアメリカの現状を把握する。 ・班で意見をまとめて、ロイロノートに提出させる。代表者が発表する。 ・6班分の発表 ・異文化共生について自分の考えについてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数々のニュースソースからキーワードを指摘していく。 例:不法移民・マイノリティー・グローバル化等 ・選挙制度には深入りしないが2大政党の存在にはふれる。 ・トランプ政権に批判に意見が集中しないように留意する。 ・自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人種・民族等の違いについてどのように互いに認め合って生きていくのか、異文化共生について自分の考えについてまとめることができた。(分析する)
まとめ (10分)			

(3) タキソミーに対応した評価

- ・人種・民族等の違いについてどう互いに認め合って生きていくのか、異文化共生について自分の考えをまとめることができた。(分析する)

英語科学習指導案

日 時 令和元年 12 月 20 日 (金) 5 校時

対 象 第 2 学年 A B 組 66 名

授業者 服部 真由美・太田 麗紅・村田 雅則

場 所 3 階 2 年 A 組・B 組教室、ICT 教室

1 単元名

Presentation2 町紹介 NEW HORIZON English course 2 (p. 9 2)

2 単元の目標 (ねらい)

町について 4 文以上で発表することができる。

3 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。 ・ 聞き手が理解しやすくなるように工夫して話している。 ・ 身振り手振り、知っている語句や表現をうまく利用して自分の考えなどを話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく書くことができる。 ・ 自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる。 ・ 内容的にまとまりのある文章を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語で話されたり読まれたりする内容を正しく聞き取ることができる。 ・ 書かれた内容から書き手の意向を読みとることができる。 ・ まとまりのある英語を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話しを続けるために必要なつなぎ言葉や相づちを打つ表現などを理解している。 ・ 文構造や語法、文法などに関する知識を身に付けている。 ・ 正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。

4 指導観

(1) 単元観

この単元において、生徒は町の魅力について特色や魅力を考え、町のよさについて自分の考えを発表することができる。来年は、オリンピックが開催されるため、東京という町の魅力を既習の文法事項である can や there is / there are、形容詞を使って発表させていく。

(2) 指導に当たって (生徒観・教材観・タキシノミーにおける学習者の位置付け)

2 年 A B 組の生徒は活発な生徒が多く、英語を話すことに関心が高い。また積極的に教え合う姿勢ができているため、生徒同士の活動は積極的に取り組んでいる。そのため今回の町紹介においては、班のなかで互いに助言し合うことで、よりよいスピーチができるように指導していく。

本時の学習活動はタキシノミーにおいて「C 手続き的知識」の「5 評価する」に分類している。本時の中では、班員に向けてスピーチを発表し合うことにより、スピーチを改善し、より分かりやすい発表ができることを学習者の動詞「審査する」、「再構築する」として扱うことを目的とした。

5 本時の学習

(1) 目標 班で互いのスピーチを聞き合い、スピーチを改善し発表することができる。

(2) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらい「CM発表に向け互いに評価できる」 ペアで「すらすら英会話」を使って、町紹介の際に話す表現を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 滑らかに話すことができるように、机間指導をし、助言する。 	
(展開)タキソノミーより:「審査する」、「再構築する」の実践			
展開1 (12分)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の書いた紹介文を見直し、最終確認をし、発表の練習をする。 班の中で発表し合い、聞いている生徒はタブレット端末で撮影する。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい発音やアイコンタクトを意識して練習できているか、机間指導を行う。 タブレット端末を使う際の注意事項を確認する。 ジェスチャーの必要性や正しい発音などを助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの発表を見合い、よかった点、改善点を伝え合うことができる。
展開2 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> よかったところ、改善点を班で共有する。 改善点の助言を基にスピーチを修正し、個人で練習する。 班同士で発表し、発表をタブレット端末で撮影して、見合い、互いのよいところ、改善すべきところを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い、助言する。 班でのスピーチのまとめや姿勢を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善点を基に発表するスピーチを修正することができる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 次回の発表に向けて、本時でスピーチを改善できたかを確認する。(プログレスカードの記入) 		

(3) タキソノミーに対応した評価

- 互いの発表を見合い、よかった点、改善点を伝え合うことができた。(審査する)
- 改善点を基に発表するスピーチを修正することができた。(再構築する)

対 象 第2学年C組 33名

授業者 前瀧 大吾・山野 俊作

場 所 1階 武道場

1 単元名 (3) 傷害の防止 「応急手当の意義と基本－2」

2 単元の目標 (ねらい)

- ・ 傷害の防止について関心をもち学習活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・ 傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え判断し、それらを表すことができる。
- ・ 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因やそれらによる傷害の防止、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項およびそれらと生活との関わりを理解する。

3 単元の評価規準

ア 健康・安全への関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての思考・判断	ウ 健康・安全についての知識・理解
・ 傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ・ 傷害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	・ 傷害の防止について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ・ 傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	・ 交通事故や自然災害などによる障害の発生要因について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ・ 交通事故などによる傷害の防止について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ・ 応急手当について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、傷害の防止について理解を深める学習である。私たちは日常生活で事故や自然災害に巻き込まれて、ケガをしたり命を落としたりする危険性がある。応急手当をすることによって傷害の悪化を防止できたり命を救ったりすることができる。適切な判断の基に応急手当ができるように学習内容を理解することが重要である。

(2) 指導に当たって (生徒観・教材観・**タキソノミーにおける学習者の位置付け**)

生徒たちは、1年次の11月に普通救命講習を受講し、胸骨圧迫などの心肺蘇生法の実習を行った。しかし、具体的な場面を想定しての長時間胸骨圧迫の実習は行っていない。そこで、ICT等から、習得すべき内容を理解させ、課題の解決方法について考える学習活動を行う。また、生徒間での話し合い活動を通して、課題に対する見方や考え方を広げたり、深めたりしながらよりよい解決方法を考えていく。本単元では、応急手当の意義と手順を学んだ後、心肺蘇生の実習を通して、さらに理解させ深めていきたい。

本時の学習活動はタキソノミーにおいて「Dメタ認知的知識」の「5 評価する」に分類している。本時の中では、前時で学んだ心肺蘇生の方法を実習し、付箋を用いて話し合い活動を行い、班で意見をまとめていくことを学習者の動詞「実習する」、「評価する」として扱うことを目的とした。

5 本時の学習

(1) 目標 人が倒れた場面を想定した応急手当の実習において、より適切に行動するための方法について言ったり書いたりすることができる。

(2) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> 前時を振り返る 本時の学習課題とねらいの確認 本時のねらい「心肺蘇生法の実習を通して理解を深め、評価できる」 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、出席確認、健康観察 元気よく挨拶をさせる。 ホワイトボードに本時のねらいを記載し、流れを明確にし、理解させる。 救命救急の実技を行うことを意 	
展開1 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生の実習についてのポイントを確認する。 		
(展開)タキソノミーより:「実習する」、「評価する」の実践			
展開2 (27分)	<ul style="list-style-type: none"> 班の意見をまとめる。 実習を通して班で共通して難しかった点を挙げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 実習(1人3分) *胸骨圧迫まで 実習者:資料を見ずに一連の実技を行う。 アドバイザー:チェック項目に沿って実習を確認する。 撮影者:ロイロノートで撮影をする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 実習の中で特に有効だったアドバイスを選んで発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 振り返り(1人3分) 実習者:撮影した動画を見て、自分の実技を振り返り、課題となる点を伝え、ワークシートに記入する。 アドバイザー:実習者の課題に対するアドバイスを考え、付箋に記入する。 撮影者:ロイロノートで撮影した動画を提出し、実習者に動画を見せる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 時間を明確にして、時間内に行えるように巡回して声を掛ける。 できていない項目は、実習を止めてアドバイスをし、再度取り組ませる。 話し合いが滞る班には、ワークシート2『実習の進め方』に沿って、支援をする。 仲間の動きをアドバイスすることにより、自己の取り組むべき課題も明確になることを伝える。 付箋を活用して、意見交換できるようにする。 付箋でのアドバイスを持ち寄り、確認させる。 ホワイトボードに記載したねらいに対して、より具体的に課題設定ができるように適宜発問をし、深く振り返るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法について手順を確認しながらポイントを押さえて実習することができる。 心肺蘇生法について、仲間の動きをアドバイスしたり、課題となる点を発表したりして振り返ることができる。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 後片付け、本時の振り返り 使用した用具をメンバーと協力しながら片付ける。 		

(3) タキソノミーに対応した評価

- 心肺蘇生法について手順を確認しながらポイントを押さえて実習することができた。(実習する)
- 心肺蘇生法について、仲間の動きをアドバイスしたり、課題となる点を発表したりして振り返ることができた。(評価する)

国語科学習指導案

日 時 令和元年 12 月 20 日（金） 5 校時

対 象 第 2 学年 D 組 33 名

授業者 二葉ゆかり

場 所 3 階 2 年 D 組 教室

1 単元名 「方言と共通語」

2 単元の目標（ねらい）

- ・方言に関心をもち、方言について自ら調べることができる。
- ・方言と共通語の持つ特性を理解し、今後の言語生活を向上させることができる。

3 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
自分たちが日常用いている言葉に興味・関心をもち、学んだことを自らの言語生活に生かそうとしている。	様々な情報手段を活用して材料を集め、整理する。	方言と共通語の役割や特徴・違いについて理解し、時と場合などに応じて使い分けることを意識している。

4 指導観

(1) 単元観

小学校段階で学習してきている方言と共通語の基本的な違いについて確認するとともに、方言と共通語それぞれが果たす役割についてより深く考えさせる。

(2) 指導に当たって（生徒観・教材観・タキソノミーにおける学習者の位置付け）

地域性や現在の言語環境から、方言にはなじみが薄く、関心の低い生徒も多いかと思われる。しかしながら、地方の生活習慣や伝統的な文化を理解していく上でも、地域により言葉が違うことや、方言のよさに気付くことは重要である。そしてさらに、生徒自身の日常の言語活動にも興味をもち、自らの言語生活が向上していけるようにつなげていきたい。

本時の学習活動はタキソノミーにおける「A 事実的知識」「B 概念的知識」「C 手続き的知識」に分類される。本時の中では方言について調べ、また、特徴や良さについて考えることを学習者の動詞「分類する」、「比較する」、「推論する」、「予測する」、「討論する」として扱うことを目的とした。

5 本時の学習

- (1) 目標 方言に関心をもち、調べることができる。
方言の特徴とよさを理解することができる。

(2) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキソミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 (5分)	・本時のねらい「方言について調べ、方言の特徴とよさを理解することができる」	・方言と共通語の違いについて確認する。	
(展開1)タキソミーより:「分類する」、「比較する」の実践			
展開1 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている方言を発表する。 ・方言クイズに答える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使って方言について班で調べる。 </div> <p>(例)</p> <p>好きな都道府県の方言 あいさつ言葉 食べ物 生き物、気持ちを表す言葉など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた方言について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班内で統一したカテゴリで調べる。 ・司会、記録、発表などの係分担も決定させる。 ・クイズ形式など工夫させる。 	・方言に関心をもち、いろいろな方言を調べることができる。
(展開2)タキソミーより:「推論する」、「予測する」、「討論する」の実践			
展開2 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・方言分布の特徴について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「捨てる」、「せともの」、「片付ける」の違いを参考にして話し合う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・方言のよさについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・各班ICT機器を使って、方言の特徴とよさを発表する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 P216 の「捨てる」の方言分布図や配布プリント全日本方言の区画や「せともの」の方言地図を参照させる。 ・以前学習している作品「盆土産」で使用されていた方言の効果などを思い出させる。 ・次回は共通語との比較も学習することを予告する。 	・方言の特徴やよさを理解している。
まとめ (5分)	・各班の発表を聞いて、プリントにまとめて記入し、提出する。		

(3) タキソミーに対応した評価

- ・方言に関心をもち、いろいろな方言を調べることができた。(分類する・比較する)
- ・方言の特徴やよさを理解できた。(推論する・予測する・討論する)

対 象 第2学年E組 33名

授業者 藏屋 栄子

場 所 3階 音楽室

1 題材名 「箏の奏法を知り、短い曲を作曲しよう」

2 題材の目標 (ねらい)

- ・ 1学年時に学習した箏曲「六段の調」に出てくる箏のいろいろな奏法を聴き取り、箏についての知識、理解を深め、演奏の基礎的な奏法を練習し技能を習得することができる。
- ・ 箏を使って楽曲の創作活動をすることができる。

3 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
箏曲に親しみや関心をもち、主体的に音楽表現や創作の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、音階や音色が生み出す特質や雰囲気を感じながら、思いや意図をもって表現の工夫をしている。	旋律の流れや音色の違いを生かした、曲にふさわしい音楽表現をするための技能を身につけ、表現することができる。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わって聴いている。

4 指導観

(1) 題材観

箏は弦を弾けば音が出るので、音を出しやすく「さくらさくら」などの演奏しやすい曲を練習することで、和楽器の中では親しみやすいものである。また、箏の調弦による音階を取り入れることで和の要素を味わいながらの創作活動が無理なくできるものとする。

(2) 指導に当たって (生徒観・教材観・タキソノミーにおける位置付け)

明るく活発で授業にしっかり取り組む生徒が多い。10月の合唱コンクールでは、クラスでよくまとまり、学年で最優秀賞をとった。

「六段の調」は箏曲の中でも、よく耳にする楽曲であり箏の奏法も多く用いられており、音色の違い等を聴き取り、箏に親しむために適した楽曲である。

本時の学習活動はタキソノミーにおいて「D メタ認知的知識」の「6 創造する」、「5 評価する」に分類している。本時の中では、創作した楽曲を譜面に記録、演奏表現していくことを学習者の動詞「創造する」、「評価する」として扱うことを目的とした。

5 本時の学習

(1) 目標 箏の奏法を知り、短い曲を作曲し、演奏を表現することができる。

(2) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・本時のねらい・学習内容の確認 <p>「箏の音色を生かして、短い曲を創作し、演奏することができる。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認 ・気持ちを集中させる。 	
(展開1)タキノミーより:「創造する」の実践			
展開1 (17分)	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の奏法を確認し、音色の違いを生かして、各自の創作曲を完成させる。 <p>・創作曲をワークシートに記譜して、表現の工夫をしながら演奏の反復練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二～三人のグループで一面の箏を順番に使用させることで、活動に集中させる。 ・旋律と音色の工夫を意識しながら創作活動をさせる。 ・音色の違いなど演奏で難しい部分を反復練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を意識して創作活動をするができる。
(展開2)タキノミーより:「評価する」の実践			
展開2 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・二～三人のグループで旋律と音色の工夫を伝えながら互いの演奏を発表し合い、批評を述べ合う。 <p>・グループからの言葉と自己評価をワークシートに記入する。</p> <p>・ワークシートを撮影し、タブレット端末を使用してロイロノートに提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの演奏をしっかりと聞き合う雰囲気を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の作品についてしっかりと聞き取り評価することができる。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・二～三名のよい作品の演奏を全員で聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者のよい作品を、表現の工夫を意識し味わいながら聴き取る。 	

(3) タキノミーに対応した評価

- ・目的を意識して創作活動をするできた。(創造する)
- ・自他の作品についてしっかりと聞き取り評価するできた。(評価する)

社会科（公民的分野）学習指導案

日 時 令和元年 12月20日（金）5校時

対 象 第3学年B組 33名

授業者 山本 真大

場 所 2階 3年B組教室

1 単元名 第3章 3節「地方自治と住民の参加」

2 単元の目標 (ねらい)

- ・地方公共団体の活動や地域づくりについて関心を高め、それらについて意欲的に追究することができる。
- ・住民自治を基本とする地方自治の考え方や、地方公共団体の政治や財政のしくみについて理解し、その知識を身に付けることができる。
- ・自分が住む地域の地方公共団体の役割と地域づくりに関わる課題について多面的・多角的に追究し、その結果から条例を提案できる。
- ・必要な資料を選択・分析し、考察した結果を分かりやすく説明することができる。

3 単元の評価基準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
地方自治と関わりから自分たちの住む地域の抱える課題について意欲的に追究している。	地方公共団体の役割と地域づくりに関わる地域の課題について、資料から多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。	資料の分析をし、その情報をもとに考察した過程や内容をまとめ、分かりやすく説明することができる。	首長と地方議会の関係や財政などの地方公共団体のしくみ、地方自治が住民参加による住民自治が基本であることを理解している。

4 指導観

(1) 単元観

本単元では、地方自治について扱う。まず、住民自治や地方公共団体の仕事、地方自治の制度について理解する。その後、自分たちが住む地域である墨田区の課題について資料から分析、考察する。そして、5時間のうち1時間はこれまでの学習をふまえ、墨田区の課題解決について条例案を作成し、個人やグループの考えを述べる機会を設け、表現力を育てる

(2) 指導に当たって (生徒観・教材観・タキソノミーにおける学習者の位置付け)

3年B組は全体的に明るく、活気がある。学習活動においても積極的に発言し、疑問に思うことについても質問することができる。学力や学習に対する関心・意欲は個人間で開きがある。授業に対して前向きに取り組む雰囲気がある一方、落ち着きがないところも見受けられる。そこで、生徒の学習面における実態の把握、基本的な知識と授業のつながりを意識させるために、前回の復習を適宜取り入れる。また、導入には動画や写真等の資料を見せ、生徒の興味・関心を高める環境をつくるとともに、他者の意見や考えをくみ取るために、ワークシートの作成と確認を行う。

本時の学習活動はタキソノミーにおいて「B 概念的知識」の「4 分析する」に分類している。本時の中では、資料や他者の考えをもとに、自分の考えを再構築し、最終的な考え(条例案)をまとめていくことを学習者の動詞「分析する」、「表現する」として扱うことを目的とした。

5 本時の学習

(1) 目標 分析した資料をもとに、墨田区の課題解決に向けた条例案を作成し、自らの考えを説明することができる。

(2) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 条例について、前回までの学習内容を振り返る。(動画を見る) ・ 本時のねらいを確認する。 「墨田区の課題解決に向けた条例案を考えることができる」 ・ 前回までに墨田区の課題について個人で分析し、作成した条例を確認する。 ・ 自分の考えを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 条例は地方公共団体がつくる法令であり、条例の制定・改正・廃止を決めるのは都道府県議会や市町村議会であることを確認する。 ・ 前回の授業で分析した資料の内容、自分の意見を確認する。 	
(展開)タキノミーより:「分析する」の実践			
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で意見を出し合い、条例案を立てる。 ・ グループで2つ採用したい条例案を決め、その理由をまとめる。 ・ グループでまとめた考えを発表する。(ロイロノート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な意見を出し合わせ、考えを深めるようにする。 ・ それぞれの考えをワークシートに記入するように指示する。 ・ 各自の考えを基にグループで意見をまとめる。 ・ ロイロノートを使用して全体で共有する。 ・ 発表する際は、その理由や根拠となる資料についても触れて発表するように事前に伝えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や他者の考え、資料を基に、グループの意見(案)を構築することができる。
(まとめ)タキノミーより:「表現する」の実践			
まとめ (7分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表をふまえて、「墨田区の課題解決に向けた条例案」を2つ選び、自分の考えや理由を再度まとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の考えや立場から自分の考えを、分かりやすく表現することができる。

(3) タキノミーに対応した評価

- ・ 自分や他者の考え、資料をもとに、グループの意見(案)を分析することができる。(分析する)
- ・ 複数の考えや立場から自分の考えを、分かりやすく表現することができる(表現する)

理科学習指導案

日 時 令和元年12月20日(金) 5校時
 対 象 第3学年A組 34名
 授業者 渡部 巧

1 単元名 「地球と私たちの未来のために」

2 単元の目標 (ねらい)

- ・ 科学技術の発展の過程について調べることで、技術の発展が私たちの生活をより豊かなものにしてきたことを理解できる。
- ・ 私たちの抱える様々な問題について、科学技術を利用して解決することができないか考察することの大切さに気付ける。
- ・ 自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について科学的に考察することを通して持続可能な社会をつくることが重要であることを認識できる。

3 単元の評価規準

ア 自然科学への関心・意欲態度	イ 科学的な思考・表現	ウ 観察・実験の技能表現	エ 自然現象について知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の中で使われている科学技術の例をあげようとしている。 ・ 自然現象の保全や、資源を有効利用する科学技術に興味を持とうとしている。 ・ 持続可能な社会とはどのようなものであるか考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学技術の発展が生活に及ぼす恩恵と影響を考察することができる。 ・ 科学技術が発達することによって受ける恩恵の例を、身近な生活の中から探さることができる。 ・ 環境と調和した科学技術の発展が大切であることを考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の中で使われている科学技術の例をあげようとしている。 ・ 自然現象の保全や、資源を有効利用する科学技術に興味を持とうとしている。 ・ 持続可能な社会とはどのようなものであるか考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学技術が発達することによって受ける恩恵の例を説明できる。 ・ 自然環境の保全や、資源の有効利用する科学技術について説明できる。 ・ 持続可能な社会とはどのような社会か説明できる。

4 指導観

(1) 単元観

本単元では、これまでの物質とエネルギーなどの学習を生かして、エネルギー資源の利用や科学技術の発展と人間関係との関わりについて認識を深め、これからの自然環境保全と科学技術の利用の在り方について多面的、総合的に考えさせることがねらいである。そこで、エネルギー資源を有効利用し、持続可能な循環型社会を構築させるために、エネルギーの変換や保存について日常と関連付け、科学技術の発展のあり方について科学的な根拠にもとづいて適切に判断し、自分の考えを発表できるようにする。

(2) 指導に当たって (生徒観・教材観・**タキソノミーにおける学習者の位置付け**)

本学級の生徒は、関心や意欲が高いが、教科内容を知識として身に付けている量も少なくない。また、事物や対象に対して論理的に順序立てて考え、説明していくことを苦手としている。そのため、理科における思考力・判断力・表現力を身に付けていく必要がある。

本時の学習活動はタキソノミーにおいて「C 手続き的知識」の「4 分析する」に分類している。本時の中では、生活の中にある科学技術の活用例と課題について、今まで学習した知識を用いながら人間のこれからの生活と地球の未来について自ら考えていくことを学習者の動詞「推論する」として扱い、他者の意見を聞くことで自分の考えを広げたり、深めたりすることを「評価する」と扱うことを目的とした。

5 本時の学習

(1) 目標 私たち人間が抱える問題点についての解決策を考えことができる。

(2) 本時の展開

1 単元名 夏草―「おくのほそ道」から

2 単元の目標（ねらい）

- ・古典に親しむ態度を養い、日本の言語文化について関心を深めることができる。
- ・芭蕉のものの見方や考え方を読み取ることができる。
- ・歴史的仮名遣いや語句に注意しながら、また文章の特徴やリズムを生かしながら、音読することができる。

3 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
作品に描かれた作者の思いを捉え、自分のものの見方や考え方を深めようとしている。	現代語訳や脚注を参考に内容を理解し、歴史的背景に注意して旅に生きる芭蕉の生き方や思いを捉えている。	漢文調の言い回し、対句的表現など、作品のもつ表現の特徴に注意し、言葉の響きを楽しみながら読んでいる。

4 指導観

(1) 単元観

本教材は、「おくのほそ道」の概要説明と、冒頭部分、平泉の部分から構成されている。冒頭部分では、芭蕉の人生観と旅への憧れが述べられており、平泉の部分では、藤原三代の栄華や義経主従の戦いの跡を眺めることによって、人間の営みのはかなさに対し、自然の悠久性を感じる芭蕉の姿が描かれている。

松尾芭蕉といえば、蕉風俳諧を確立させ、江戸時代の三大俳人の一人として有名であり、日本文学史における彼の存在の大きさは、周知のところである。3年間の古典学習の集大成として「おくのほそ道」を読むことは大変意義深い。「おくのほそ道」の一番の魅力は、その格調高い文体である。朗読によって、その味わいを実感することから学習を始めたい。また、芭蕉のものの見方や考え方に触れ、芭蕉の旅への思いを深く想像させたい。

(2) 指導に当たって（生徒観・教材観・タキノノミーにおける学習者の位置付け）

授業に対して、意欲的に取り組む生徒が多い。発問をすると、発問に対する反応がとてもよいクラスである。しかし、作文を書いたり、自分の意見を述べたりすることなどの表現することを苦手とする生徒が多い。そのため、4月より音読や書く活動を意識的に取り入れてきたが、最近では、声を出すことや表現することに、少しずつ自信を付けてきている。

本時の学習活動はタキノノミーにおいて「B 概念的知識」の「3 応用する」に分類している。本時の中では、根拠をもって自分の考えを示すことを学習者の動詞「説明する」、「明確に述べる」として扱うことを目的とした。

5 本時の学習

(1) 目標 冒頭文に書かれている言葉に注目して、根拠をもって作者の思いや旅の目的・真意を読み取ることができる。

(2) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 (5分) 展開1 (10分) 展開2 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 原文を朗読する。 ① 範読 ② 追い読み 本時の目標を把握する。 「芭蕉の旅への思いを説明できる」 現代語訳や脚注を参考にしながら、原文の内容を捉える。 ① 旅への憧れ ② 具体的な旅の支度 ③ 芭蕉の住まいを表す言葉 今回の旅の目的は何かを冒頭文（現代語訳）から読み取る。 ① 旅の目的を選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 観光・お参り・知人訪問・思い出づくり・無目的 その他（ ） ② 理由を冒頭文（現代語訳）から考えてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> スピーディに読み、古文のリズムを感じさせる。 板書で目標を明示する。 資料プリントを用意し、生徒がイメージしやすいようにする。 プリントが埋まらない生徒には現代語訳をもう一度読み直してから作業を進めるように伝える。 芭蕉の思いを探るのが目的であるため、現代語訳文を使う。 	
（展開3） タキノミーより：「説明する」、「明確に述べる」の実践			
展開3 (10分) 展開4 (10分) まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 旅の目的を班で話し合う。 ① 旅の目的と根拠や理由を発表し合う。 ② 自分と違う意見を聞き、何が目的・真意であったのかを話し合う。 芭蕉の憧れる旅と、現在の旅との違いを考える。 プリントに記入し、班の中で発表する。芭蕉の旅への思いをどう思うかを数人に発表させる。 本時のまとめ。 自分の考えの変化・深まり、作品や作者への感想、めあてに対する反省 次回の授業の予告。 	<ul style="list-style-type: none"> 班は3～4名とし、班長は特に定めない。 簡単にメモをさせながら話し合わせる。 班で一つに決めるのではなく、班の話合いをもとに、自分の考えをまとめたものを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 冒頭文に書かれている言葉に注目して、根拠をもって作者の思いや旅の目的・真意を感じ取ることができる。

(3) タキノミーに対応した評価

- 冒頭文に書かれている言葉に注目して、根拠をもって作者の思いや旅の目的・真意を読み取ることができた。
(説明する、明確に述べる)

数学科学習指導案

日 時 令和元年12月20日(金) 5校時

対 象 第3学年DE組 66名

授業者 前田憲章・前田利江・野原銀河・岩井洋平

1 単元名 「三平方の定理」

2 単元の目標 (ねらい)

- ・三平方の定理について、数学的活動を通して、意味を理解し、それが証明できる。
- ・三平方の定理について、数学的活動を通して、三平方の定理を見出すことができ、具体的な場面で活用できる。

3 単元の評価規準

ア 数学への関心・意欲・態度	イ 数学的な見方や考え方	ウ 数学的な技能	エ 数量や図形などについての知識・理解
さまざまな事象を三平方の定理で捉えたり、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり、判断したりしようとしている。	三平方の定理についての基礎的基本的な知識及び技能を活用しながら、事象に潜む関係や法則を見いだしたり、数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したりその過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	直角三角形の辺の長さを求めたりするなど、技能を身に付けている。	三平方の定理の意味などを理解し、知識を身に付けている。

4 指導観

(1) 単元観

「三平方の定理は直角三角形の3辺の長さの関係を表しており、数学において重要な定理であり、測量の分野でも用いられるなど活用される範囲が極めて広い定理である。」(学習指導要領解説より) 生徒がこの定理に関心を持ち、積極的に学習し活用していくためには、「定理を覚える」、「利用する」ことの学習の大切さと同様に、この定理の歴史的背景を知ることや、観察や操作を通して定理を見出すことも大切である。さらに、活用される場面に積極的に目を向けたり、「日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動」のできる単元である。

(2) 指導に当たって (生徒観・教材観・**タキソノミーにおける学習者の位置付け**)

第3学年DE組の生徒は、数学が苦手だと感じている生徒が多く、解いたことのない課題に対して抵抗を示す傾向がある。技能を身に付けるための課題には比較的積極的に取り組むが、見方や考え方をためされる課題に対しては、あきらめてしまう生徒もいる。課題を解決するための考え方の元となる基本事項をいくつか思い出させることを通して、授業者が解決の方法を提案し、自分たちの力で解決までたどり着ける体験をさせ、自信を付けさせたい。

本時の課題は、本校の校歌にも登場し、墨田区の象徴でもあるスカイツリーの、「その先端からどこまで見渡せるのか」という、分かりそうであるが、実際には先端から見渡すことが難しい設定について、想像したり、図形的に解決する方法を考えたりする過程で、これまで学習してきた三平方の定理や図形の基本事項を活用できる課題である。

本時の学習活動はタキソノミーにおいて「D メタ認知的知識」の「3 応用する」に分類している。本時の中では、課題「スカイツリーの先端からどこまで見渡せるのか」を三平方の定理を活用して解決することを学習者の動詞「推論する」、「方法や道具を選択する」として扱うことを目的とした。

5 本時の学習

- (1) 目標
- ・身近な課題を解決するために、三平方の定理の基礎を活用できる。
 - ・解決のために I C T 機器を自由に活用して考え、考えたことを工夫して発表できる。
- (2) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動 【※学習活動はタキノミーで位置付けた活動】	指導上の留意点	評価規準
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・スカイツリーから街を見渡すという行為に対して、具体的なイメージを持つ。(質問)スカイツリーの展望台から景色を見たことがある人はいますか?家からスカイツリーが見えますか? 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を確認し、具体的なイメージを持たせる。 ・「資料箱」にスカイツリーを中心とした地図を入れておくが、自分でできる場合は使用しない。 	
展開 1 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを確認する。「スカイツリーの先端から見渡せる範囲を三平方の定理を活用して見つけることができる」 ・ロイロノートを開いて (w e b 上の地図) を用いて、スカイツリーの場所を探す。(発問)スカイツリーの先端からどこまで見渡せるでしょうか ・スカイツリーから見渡せる範囲を予想して、地図に赤い線で示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒により、直感的な予想、根拠に基づく予想があつてよい。 	
(展開2)タキノミーより:「推論する」、「方法や道具を選択する」の実践			
展開 2 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> ・班になり、協力して、解決方法を探り、班内で自分の考えを発表しあつて、班としての最終の答えを導く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートに作業を一つずつ記録させ、一連のブックにする。班で意見を共有するとき、授業者に課題提出するとき、全体に発表するときを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な課題を解決するために、三平方の定理の基礎を活用することができる。 ・解決のために I C T 機器を自由に活用して考え、考えたことを工夫して発表することができる。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・解決した班は、発表用のブックを完成させる。 		

(3) タキノミーに対応した評価

- ・身近な課題を解決するために、三平方の定理の基礎を活用することができた。(推論する・方法や道具を選択する)
- ・解決のために I C T 機器を自由に活用して考え、考えたことを工夫して発表することができた。(方法や道具を選択する)